

炎症性腸疾患からの発癌

司会 獨協医科大学病理学(人体分子) 藤盛 孝博
帝京大学医学部外科 渡邊 聡明

本テーマは既に JGA のコアシンポジウムとしてとりあげられている。そのなかで、dysplasia(炎症性腸疾患に伴う腫瘍)が前癌病変としてだけではなく浸潤癌の存在を示唆する所見として重要であり、その診断が治療選択に関与することが指摘された。一方、この数年の色素・拡大観察・NBI などの診断学と分子生物学的な手法の進歩には目を見張るものがある。癌幹細胞や癌環境など、癌発生進展機序についても新しい知見がだされている。今回は、IBD cancer の臨床診断や癌合併高危険群の選別における新しい展開・試みを公募したい。